

小企業がISO-14001に取り組む意味とは？

「環境が、経営のキーワードになる？」

つい、先日20人のゴム製品加工・製造業の専務から相談があった。ISO-14001の取得を検討しているが、経営としてのメリットを具体的に、社長に説明できない、という。

この会社、原材料に有機溶剤や、「有害物質」を扱っている。この会社の納入先のメーカーの最終製品の消費者への影響、工場の近隣住民への影響を検討しなくてはならない。

今のところ、法律には触れていない。しかし、こうした、「規制」は、年々厳しくなるのは明らかに予想される。場合によっては、その使用原材料そのものが使えなくなる可能性もありうる。

今、ヨーロッパの「ローズ規制」や「京都議定書」による「環境」への要求はさまざまに及んできている。

自治体の「グリーン調達」は、じわじわ広まりつつあるのはご存知だろう。企業の社会的責任への要求は、ますますハードルが高くなる。

この「ゴム会社」の専務の思いは、正しい。しかし、なかなか関係者にISO14000の取得の必要性を明快に説明しにくい。

環境負荷軽減【社会的責任】の達成と経営リスクの軽減を同時に追及！

ISO-14000のマネジメントの目的は、この考え方だ。小企業だから、「うちは関係ない」とか「影響が少ないから」と考えるのは、“危険”だ。

小企業がISO14001を取得する第一の目的は「リスク回避」だ
何故なら

もし、主要取引先や、自治体から、ある日突然「規制」が強められ、「その原材料は使えない」とか、「その製造方法は、影響が多く基準値をクリアできないので、継続できない」となったら、どうなるだろう？

恐らく、経営体力の弱い小企業は「会社存続の危機」に見舞われる事に。

製品の開発、設計、製造さらに、原材料の貯蔵方法まで、変えなくてはならない。その時に、場合によっては、莫大な設備投資が一気に必要になる事もあり得る。

ISOの環境マネジメント(14001)は、今からこうした「リスク」をしっかりと意識し、原材料の代替の検討、設計開発の工夫改善、製造方法の変更の可能性など、継続的に改善してゆく「体質」「仕組」を“トレーニング”する事が可能になる。

何より、こうした「環境マインド」を社内に根付かせることになる。

これこそ、小企業が14000に取り組む意義といえる。

「改善してゆく体質」が定着していれば、“いざ”という時の「対応」を先取りできる。

こうした「体制」「マネジメント」が全く無い企業がいきなり「規制」に出くわすと、それこそ、会社の「本当の危機」になる。

「環境マネジメント」は、「やっても“利益＝お金”に結びつかない」と考えている経営者は、もう一度考えよう！

企業の目的とはなにか？ 「存続と発展」です。存続していれば、発展は可能です。

ISO-14001は、こうした存続の「リスク回避」を日頃から、“トレーニング”する事になるのです。

人間でも、いきなり42KMを走れと言われても、出来ない。初めは5KM、そして、10KM、15KMと伸ばしてゆく。それが、トレーニングです。

このゴム会社の専務に以上の話をもう少し詳しく話した。じっくり聞いていた専務は、

「ようやく、社長を説得する自信が湧きました」と語気強く言い切った。